

私の目指す弁理士像

No.58

会員 林 一好

私は、昨年弁理士試験に合格し、弁理士登録しました。企業の研究開発部門に10年勤務後、現在は特許事務所で勤務しています。特許中心に実務経験は約1年半。このような、いわゆる典型的な「新米弁理士」の私にとって、「目指す弁理士像」とは、一体何なのでしょう。

実は、私はそのような弁理士像を現在明確に描けておりません。したがって、年齢も若くない私にとっては、この弁理士としての最初の1年こそ、「私の目指す弁理士像」を模索、構築する年にしようと考えています。そこで、以下、私の目指す弁理士像の模索方法について、思うところを少々述べさせていただきます。

私の場合、企業在籍時代に、研究開発者という立場から、発明、出願、他社対策、契約、営業交渉等、色々な場面で特許に絡む事態に多数遭遇しており、特許部や多数の弁理士の方にもお世話になっていました。そして、そこで得た興味から、今度は立場を代えてみようと思いに立ち、現在に至っています。

このように、エンジニアからスタートして特許に絡んで合計15年にもなろうとしているにもかかわらず、現在に至っても、自分にとっての弁理士像は未だ漠然としており、いわゆる「技術、法律、語学に精通している」程度の一般的な認識を越えません。特に、「弁理士として一体何が自分の長所であり武器であるのか(としたいのか)」という大命題については、とんと答えが見つかりません。

しかし、こうした大命題に挑み、目指す弁理士像を探している今こそが、実は結構楽しいもののようにあります。

その昔、大変お世話になった先輩はこう言っていました。「何事も、どの方向に進むかの選択と、そこに到達するための作戦こそが最も重要で、しかもおもしろいのだ。一度始まれば、後は流れにまかせて進むことができるのだから。」現在の私が、真にその状態なのかも知れません。

例えば、いわゆる弁理士の新人研修なども、そのような方向性を見極めるための重要な手段として提供して頂いているものと私は考えています。そこには、実際に過去、理想の弁理士像を目指された方々の現在の姿があり、そこから、自分の今後の方向性、可能性を模索することができます。

これを、今後、弁理士が身に付けなければならない知識やスキルを詰め込む場所と思うと、膨大な資料に埋もれて憂鬱になるかもしれませんが、考えを変えて、「私の目指す弁理士像」を探す情報提供講座(まだ受験生の気分が抜けていない)と思った私にとっては、ときには先輩弁理士の人間性などもウオッチングさせて頂きつつ、先輩弁理士が持たれている武器についての研究を行うことができ有意義でした。

以上、実に抽象的な話になってしまいましたが、1年後には「私の目指す弁理士像」が、はっきり言えるようになるべく、一方では、日々の業務から基本スキルの修行を行いつつ、他方では「周囲の観察を怠らずに」過ごしたいと思う今日この頃であります。「木を見て森もみる」といったところでしょうか。